

事業完了報告書（墨田区）

調査研究期間等

調査研究期間	令和5年7月19日～令和6年2月29日
調査研究事項	《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》 IV. その他夜間中学における教育活動充実に関すること ・タブレット端末を活用したカリキュラム開発について ・卒業後のキャリア形成を踏まえた進路指導の在り方について ・日本語指導・カウンセリング・多様な生徒への対応に関すること
調査研究のねらい	<p>①タブレット端末を活用した「個別最適化された学び」「協働的な学び」のためのカリキュラム開発</p> <p>墨田区立文花中学校夜間学級では、近年、外国籍生徒の入学が増えており、外国籍を持つ生徒の中でも、日本語の使用に課題を抱える生徒が幅広くなっている。その結果、使用する母語も多言語化しており、その実態に即して対応することが求められている。</p> <p>指導教材の導入と並行し、GIGAスクール構想を念頭に、生徒の国籍にとらわれず「個別最適化された学びの充実」「個人の学習活動から協働的な学びへつながる授業」を行うための、タブレット端末を活用したカリキュラム開発について取り組み、教職員の資質・能力の向上を図る。</p> <p>②生徒のキャリア教育の育成を目指した進路指導の充実</p> <p>外国籍生徒の進学・就職状況について研修を行う。定時制高校への進学が一定数いることから、近隣の定時制高校との連携を促進するだけでなく、卒業後の高校進学などキャリア形成について展望をもつことができる進路指導について研究する。</p> <p>③通訳介助・カウンセラーの効果的な配置と活用の研究</p> <p>現在、中国語とネパール語の通訳介助が勤務しているが、カウンセラーとの連携をより充実させていく必要性が求められている</p>

	<p>。日本語での表現力が十分ではない生徒の学習や、生活に関する相談を母国語で受けるために、通訳介助・カウンセラーの効果的な配置と活用についての研究を進める。</p>
調査研究の成果	<p>①タブレット端末を活用した「個別最適化された学び」「協働的な学び」のためのカリキュラム開発</p> <p>タブレット端末を活用した「個別最適化された学び」「協働的な学び」を行うための授業開発に向けた研修として、放送大学客員教授、株式会社Loiloより講師を招聘し、ロイロノート、ミライシード活用のための教員向け実技研修を毎月2回実施した。研修を通して教科別にタブレット端末を活用したカリキュラムについて検討を行い、12月9日に行われた第69回全国夜間中学校研究大会にて、「文花中学校数学科実践カリキュラムについて」を発表した。カリキュラムを管理するために個別指導計画を作成することで、授業者が入れ替わっても共通理解を図りながら指導を行うことができた。</p> <p>「個別最適化された学び」として、「導入」「解き方」「回答・解説」を加えた夜間学級版デジタル教材を作成し、タブレット端末による課題等の配布ができるようにすることで、生徒は自ら学ぶことができるようになり、効率的に学習できるようになった。特に若い生徒はタブレット端末を活用した学習により、学習意欲が高まった様子が見られた。</p> <p>クラス内の生徒数が少ない中で行う「協働的な学び」として、決められたテーマに対し、ロイロノート内で共同編集ができる機能を活用しながら話し合う活動や、課題への取組を教室に配備された大型モニターに表示し、生徒それぞれの解き方を発表し合うことを取り入れたことで、活発な意見交換をすることができた。解答の共有をすることにより、自身の解答と比較し見直すことで間違えに気づかせたり、生徒によって異なる解き方をしていることを共有することで深い理解に繋げたりすることができた。また、2月19日に墨田区立文花中学校で行った総括会議において、生徒の意見などをデータとして保存することで、それを次年度以降にも活用することで年度を超えて多くの意見に触れることができると想定されるなど、今年度、実技研修を担当していただいた講師の方よりご示唆いただいた。</p>

これらについては2月22日に行われた第三回東京都夜間中学校研究大会にて、「理科」「国語」「数学」「日本語」の指導において、ICTを活用した先進的指導として研修成果を発表した。

また、外国籍の生徒が多いことから日本語テキスト「大地」の著者を招聘し、オーディオリンガルメソッドとコミュニケーションアプローチによる指導の使い分けを意識し、ロールプレイを効果的に指導する方法について研修した。研修を通じ、より効果的な指導を目指し、「大地」を基にしたデジタル教材の開発を行い、効率的に日本語指導ができるようになるためのカリキュラム開発に繋がった。

②生徒のキャリア教育の育成を目指した進路指導の充実

7月28日に、都立の高校12校（全日制・定時制・昼夜間定時制・チャレンジスクール）との進路指導連絡協議会を墨田区立文花中学校にて実施し、そこで知り得た情報の共有を教員間で行った。

進路説明会を年5回実施し、そのうち3回は3年生のみで、残り2回は1・2年生も参加させることで、卒業後の進路を早い段階から意識させることができた。

今年度は10代の生徒が多く、例年と異なり定時制だけでなく全日制高校を希望する生徒が多くいたことから、全日制の都立高校、私立高校の情報を生徒に的確に伝えた。私立高校は卒業までに20歳を超えないことが受験資格の条件となる学校が多く、受験できる高校を教員で手分けして連絡を行う中で情報を整理し、受験可能な高校を生徒に示すことで、生徒が望む自己実現のための支援体制を整えるだけでなく、次年度に引き継ぐための資料作りができた。

③通訳介助・カウンセラーの効果的な配置と活用の研究

年3回実施する教育相談期間にて、担任が生徒全員と面接を実施する中で、日本語学級に属する生徒などは必要に応じて通訳介助が間にに入って対応を行った。また、週1回勤務しているカウンセラーによる聞き取りを1年間継続して実施した。

通訳介助を通して担任が把握した内容と、カウンセラーから知り得た情報を、毎月校内で実施する特別支援委員会で共有し、個別指導計画に反映させることで学校としての対応の検討と共通理解を行うことができた。日本語での表現力が十分ではない生徒の支援体制を、通訳介助・カウンセラーを通してより充実させることができた。